

発言)と指摘した。調整の結果、ECより、「国際的な義務や取決めと両立しない一方的措置」の除去又は回避という修正提案がなされ合意した。

15. 汚染物質、特に酸性降下物の原因となるものを含む大気汚染物質は、森林生態系の健全性にとって、地方的、国家的、地域的、地球的レベルで有害であるので規制されるべきである。

規制のやり方につき、マレーシア、ノルウェーより「厳格に」が提案されたが、米より「必要に応じ」が提案された。また、中国より、原案の「越境的レベル」につき懸念が表明され調整の結果「地域的レベル」にて合意された。

新刊紹介

◎熱帯のアグロフォレストリー—基礎から実践まで— 内村悦三 A6版 95 + v pp. (財)国際緑化推進センター. 東京. 1992. 3. 20 刊, 頒価 800 円 (実費・送料)

アグロフォレストリーという言葉が使われるようになってからせいぜい 20 年くらいの年月しかたっていない。しかし文献だけは猛烈な勢いで増えている。世界の各地で伝統的なやり方が「発掘」され、同時に研究や普及のサイドから新しい方式の提案がある。それをめぐってまたさまざまな論議があり、大部な概説書が海外ですでに何冊も刊行された。アグロフォレストリーはいま巨大な試行錯誤の段階にある。その意味で標準的なテキストを書くのは容易なことではないが、本書はこの困難な課題に意欲的に取り組んだものだ。全体の構成は、1. 総説、2. アグロフォレストリーの分類、3. アグロフォレストリー・システムとその取扱い、4. 地域特性とアグロフォレストリー、5. アグロフォレストリーの普及、6. 社会林業とアグロフォレストリー、7. アグロフォレストリーの課題と展望となっている。アジア、アフリカ、ラテンアメリカの代表的な方式を紹介しながら「基礎から実践まで」をカバーしようというわけだ。わずか 100 ページ足らずのテキストの中にこれだけのことを書こうとすると、多少舌足らずのところも出てくるであろう。これは入門書としていたしかたないことだが、しかし少なくとも著者のイメージするアグロフォレストリーがどのようなものであるかを知ることができる。(熊崎 実)